

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503528), 法人名 (合資会社 オープンハート), 事業所名 (グループホーム美優平岸), 所在地 (〒062-0932札幌市豊平区2条5丁目1-11 第2ヤナギダビル1F), 自己評価作成日 (令和元年11月1日), 評価結果市町村受理日 (令和元年12月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活が送れるよう目指します。」をモットーに利用者様一人一人の個性を大切にしたり暮らしを行っております。率先して食事の準備をしたり、楽しく会話をしながら食卓を囲んでおります。また、季節行事にちなんだ食材を使用し利用者様と料理をしたり、季節にあった装飾を作って飾り、季節感を感じられるよう工夫しております。地域(町内会)のイベントにも参加し、外出等にも力を入れております。職員は毎月研修会を行い、外部研修にも積極的に参加してスキルアップに繋げております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0170503528-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年12月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、最寄りの地下鉄から10分程度で、鉄筋造り4階建ての1階部分に位置している。歴史ある町内会からは、よさこい祭りには見物しやすい場所を確保してくれるなど、深い理解と協力が得られている。花植えやラジオ体操、日帰り温泉など、多くの行事には、利用者と参加している。また、運営推進会議には、2名の住民の参加があり、外部講師を招き、薬・感染症、レビー小体認知症、口腔ケアなどの研修会を開くなど、学ぶ機会としても活用している。普段は歌わない利用者が、入浴時で歌うことがあり、その後は、レクで披露する機会を設けるなど、利用者の持てる力の引き出しに努めている。折り紙の得意な利用者から、職員に「ご苦労様」と作品が手渡され、それを励みに自己研鑽に努めている。管理者からは、職員は優しい言葉かけや態度で利用者として接している、との言葉があり、職員からは、ここはアットホームな雰囲気がある、との言葉があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 5 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から地域とのつながりを大事にして地域の方々とのコミュニケーションを図るように心がけております。理念や組織については入職時、新人研修を行い毎年研修会で理念の理解を深めるようにしております。	利用者の安らかな生活への支援を謳った運営理念を事業所内に掲示し、職員のみならず、来訪者にも基本姿勢を教示している。理念の実践を確認しながら、業務に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、行事に参加して、顔見知りの関係を築く様にし、運営推進会議に毎回参加して頂きグループホームの理解協力がえられるよう努めております。	地域行事である花植え、ラジオ体操、日帰り温泉、よさこい祭り見物に、利用者に参加している。中学生と利用者の年賀状のやり取り、散歩中に会った子供達との触れ合い、町内会から入居への橋渡しなど、地域の一員としての暮らしがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会の方に参加して頂き認知症の勉強会を行い入居者様の状況を説明しつつ理解して頂くようにしております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者様の状況報告・行事報告を行い出席者の方々から意見を頂き話し合いをサービスの向上に努めております。	年6回の運営推進会議の中で、身体拘束等適正化委員会を開催している。現時点で家族の参加は困難であるが、行政と住民2名の参加が得られている。活動報告に加え、事業所の理解に繋がる研修会を毎回行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課と訪問や電話等日頃から連絡を取り合っている。運営推進会議には地域包括センターの職員に参加して頂き市や区の管理者会議に出席し情報交換しております。	事故報告などの案件は、本部職員が担当窓口を訪れている。市の管理者会議での研修や集団指導では、情報が得られ、また、来訪のケースワーカーや運営推進会議の担当者とは、情報を交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部研修に参加して身体拘束を行わないよう全職員が理解したうえでケアを行い特に新人職員には都度指導している。	指針とマニュアルを整備し、年6回の身体拘束等適正化委員会と年3回の研修会を計画し、順次実践している。新人研修でも適切なケアについて学び、業務上に於いても職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部や外部研修に参加して虐待を行わないよう全職員が理解下でケアを行い特に新人職員には都度指導している。職員同士話し合いを密に行い虐待が見過ごされないよう日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解できるよう研修会の項目に年1回は入れており、資料配布し学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は契約内容・重要事項等、十分な説明を行い理解・納得して頂いている。解約・改定についても不安・疑問のないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・家族との連絡を密にとっている。意見要望等お聞きするように心がける様にしている。苦情・不満等あった場合は傾聴し、運営に反映できるようにしている。	家族が遠方など、それぞれの事情があり、面会はごく希である。写真を掲載した事業所便りやケアプラン作成時、電話で利用者の日々の様子を伝えている。利用者や家族から意見の表出がある時は、速やかな対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い職員の意見・提案を聞く機会を設けている。日々の中でも何かあれば話し合い、反映できるように心がけている。	職員は、レクリエーションなど各業務を分担し、スキルアップに繋げている。管理者は、業務の中やミーティング時で、職員からの意見や要望を受け止め、運営やケアの向上に生かせるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握して、常日常よりコミュニケーションを取るようにし、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修への参加、報告、日々のケアの中で指導を行い職員のモチベーションを上げるスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議の参加、他事業所訪問や勉強会へ参加することで交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談、ご家族のご希望と思いをよくお聞きし、ご本人様の性格・個性・これまでの暮らしを理解し、それに添ったサービスを提供できるよう心がけ、早く信頼関係が出来るよう努めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には真摯に向き合い、困っていること、不安なことに丁寧に回答を述べることで良好な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望を良く聞きご本人が生活する上で必要としている問題点		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の一員として日常生活の中で手伝い等ご自分ができる事は声掛けしてやって頂き日々の生活を共に支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の要望や状況等wp面会時や電話にて報告・共有することで支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人が来訪された際には気軽に過ごせる場を提供している。また一緒に外出も出来るよう支援している。	家族や親類の面会時は、昔話で盛り上がりったり、外食に出かけている。近くの喫茶店に利用者と連れ立ってコーヒーを飲みに行ったり、散歩で平岸街道のりんご並木を眺めている。居間からは、昔懐かしいりんご倉庫が見える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りやレクリエーション等では職員が間に入り入居者同士が楽しく関わり合えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してよい関係が保てるように必要に応じて付き合い等をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが会話の中で希望や意向を把握し記録や話し合いにて共有している。把握が困難な場合は生活歴を家族に伺い希望に添えるよう支援している。	殆どの利用者が食に関する要望を職員に伝えており、後日、その食べ物を用意している。発語が少ない利用者とは、個人記録や表情から読み取って、思いが叶えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人・家族より入居前の生活について十分にアセスメントを行い、それに添えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において現状を把握、職員間の情報共有を元にその方にあった日常生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて意見やアイデアを出し合い一人ひとりに合った介護計画を作成している。又本人・家族・関係者との話し合いもしている。	利用者や家族が生活への意向を表すのは、殆ど無い状態である。家族からの情報や職員の気付き等を踏まえ、利用者の要望に応えるケアプランになるよう、会議で話し合っている。ケアプランの実践は、介護記録で確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活において現状を把握、職員間の情報共有を元にその方にあった日常生活が送れるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カンファレンスにて意見やアイデアを出し合い一人ひとりに合った介護計画を作成している。又本人・家族・関係者との話し合いもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の様子や変化・気づき等を個別ノートに記入して職員間での情報共有をしている。又ケアプランの見直しにも活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療を行っている。また個々のかかりつけ医との連携も取れている。	利用者全員が、月2回の訪問診療を受けている。協力医療機関以外の受診は、基本的に家族だが、現状は、管理者が同行支援をしている。週1回の訪問看護師による丁寧な健康チェックがあり、早期の受診に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身ともに変化があった時は直ちに看護師に報告相談し適切な処置や受診が受けられるよう健康管理に気をつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の生活情報をお知らせすべく基本情報を渡す等安心して治療が受けられるよう配慮している。また早期退院できるようめに情報交換をして関係作りしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人・家族と話し合いを行い職員同士ケアの方針を共有しながら対応する体制になっている。	看取りの指針や、利用者に終末期への意向を確認する書式を整備している。看取りの経験はあるが、現状は、医療体制が整っている系列の介護施設での支援になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、応急手当や初期対応については消防施設での研修会・訓練を受けております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と避難訓練を行い研修会での情報や知識を職員で共有し地域の方にも協力を得ている。	年2回、防災業者の指導の下、日中想定火災避難訓練を実施している。新人職員の参加を優先にするなど、防災への意識統一を図っている。災害備蓄品を順次用意している。	年に1回は、消防署の指導を受け、夜間想定訓練や、停電を含む自然災害想定避難訓練、入浴時などケア場面での対応、地域住民との協力体制の強化、備蓄品の充実等を検討しているため、その取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重して、カンファレンスにより個々の介助の仕方、誘導、声掛けの仕方を工夫するようにしている。	利用者一人ひとりに合った言葉かけやケアを行っており、人格の尊重を基本としている。申し送り時は、イニシャルを使い、個人記録は、事務室で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、ご本人の思いや希望を聞き叶えられるよう支援している。自己表現の難しい利用者様は代弁できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせて急がすことのない様その人らしく生活できるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用しており、ご自分で服を選んだり、時にはお化粧品やマニキュアを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と会話しながら調理・食事・片付けをしております。個々の出来る力を発揮し活かせるよう支援させて頂いております。	本部の栄養士が作成した、旬の物を取り入れた献立を基に、利用者と食事作業をし、食卓を囲んでいる。行事食は、事業所の希望を伝え、誕生日は、利用者の要望で、生チラシや吸い物、煮物、酢の物、果物、おやつはケーキで、お祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立に添いながらひとり1人の飲み込みの状態に合わせた形状を整えて提供しております。その時々介助が必要な方には支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後に声掛け、見守り、介助にて口腔ケアをおこなっております。歯科医とも連携を図り口腔状態の確認も行なっております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンやサインを把握してその方に合わせた支援を行っております。体調や食事。精神面での変化を鑑み適切な介助を心がけております。	職員は、利用者個々の排泄状況を把握し、トイレでの排泄を基本として支援している。半数近くは、布下着を着用しているが、それぞれの状態に合わせて、衛生用品を活用し、失敗の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、睡眠に気をつけ、医師と相談しながら下剤の調整を行い、水分補給も小まめに行なって快適に過ごせるよう気を付けております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその日のご気分を伺い無理強いする事無く気持ちよく入浴できるよう、支援、重度の方は二人介助にて支援しております。	入浴は、週2回を目安に、2人介助も試みながら、殆どの利用者は、掛け流しの浴槽に身を沈めている。シャワー浴は、足湯をしながら湯冷めしないように配慮している。利用者は、昔話をしたり、歌ったりと寛ぎ、入浴後は麦茶を飲んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合った場所にて休息しております。リビングや自室にて自由に行き来されております。日中はなるべく活動的に過ごし夜間は照明、温度に配慮安心安全に入眠出来るよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を全職員で把握し見守り、介助にて服用して頂いております。医師の指示どおり増減調節したり、個々の症状に応じて確認しながら支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様に役割を持って頂き、毎日張り合いのある生活をして頂けるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近場に散歩に出掛けたり、各々希望に添ったプランを元に安全に出掛けられるよう思案し状況によってご家族に協力が得られるよう支援しております。	事業所の周辺にある畑のイチゴやアジサイ等を眺めたり、近くの公園で、子供やペットに目を細めている。地域の各種行事への参加、散歩しながら平岸街道のりんご並木を觀賞、コーヒーを飲み喫茶店に行くなど、日常の外出を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上職員管理させて頂いているがご本人の欲しいものは都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等から電話があった場合はご本人が掛けたい時は都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と職員の協力の元季節など感じられる壁の飾り付けをしている。居心地よく過ごせるよう温度計を各所に設置し都度対応している。	ビルの1階を改造しており、居間兼食堂は程よい広さがあり、空気清浄機や加湿器を活用しながら、心地良い空間になっている。壁一面にクリスマスモチーフにしたタペストリーや、ちぎり絵などが飾られている居間で、利用者は、自分の居場所を見つけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で一緒に座られて雑談したり席は決めず自由その日の気分で座って頂く。ゆったりと過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりにあわせた居室の空間作りと馴染みの家具を持ってきて頂いております。	クローゼット付きの居室は、広さに違いがあるが、趣味の折り紙や家族写真、手芸作品が飾られ、また、使い慣れた調度品や生活用品が持ち込まれている。利用者は、自分の部屋を確保しながらも、皆がいる居間に自然と集まっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレに目印を付け施設内はてすりを設置して動線には物を置かないよう気をつけております。		